

活動実績報告書

平成 26 年 4 月 18 日

登録番号 20130751

氏 名 小野 紫陽子

1. 活動状況

平成 23 年 4 月 ～ 平成 26 年 3 月

・ 活動の概要

私の勤務する管内の A 市は、平成 12 年の東海豪雨災害を教訓とし、過密になった人工林 25,000ha の手入れ不足を解消し、健全な森林へ導くために間伐を推進し、木材の安定供給を進めることを、平成 18 年度に「A 市森づくり条例、森づくり構想」に定め、A 市と A 森林組合、県が連携して、団地化、森林経営計画の作成、森林施業に積極的に取り組んでいる。

このような地域の森づくり構想の実現のために、木材生産量の増加・生産性の向上、木材の安定供給に関する支援・指導を行っている。

・ 当該活動を挙げた理由

地域の森づくりの構想の実現においては、森林所有者の森林施業への関心が高まり、森林所有者が安心して森林経営を任せられる優れた林業事業者が地域に在り、その事業者が低コスト化や生産性の向上により木材生産量を増加させ、木材が安定供給されることが不可欠であり、その支援・指導をすることが重要と考えるため。

・ 当該活動における、あなたの立場と役割

木材生産指導の立場で、木材生産が思うように伸びない事業者・作業班の課題をみつけ、生産現場での技術的指導、さらに木材の安定供給を行う体制づくり等を含めた指導も行き、改善へ導く役割である。

・ 活動上発生した問題点と課題及びそれへの具体的対応策

A 森林組合は、地域の主要な林業事業者である。組合は高性能林業機械を導入し、作業班員 3 人一組で行う高密度路網と高性能林業機械を組み合わせた「低コスト木材生産システム」により 4 支所各 1 班体制を主体に木材生産を行っている。

地形の急峻さや、保育・林産施業を積極的に行ってきたかなど、支所ごとに特性があり、また作業班の技術や、職員、作業班員の木材生産に対する意識の違いから、木材生産量、生産性に大きな差が出ている。

地域全体の間伐の推進、木材生産量の増加と生産性の向上及び安定供給には、4 支所が高度に横並びになることが課題である。

1 A 市と A 森林組合、県の意思統一、目標の具体化の支援

市と森林組合、県で、木材生産量の目標を定め、平成 23 年度から、年に 3 回、その進捗状況を確認、改善策を検討する会議を行っている。

高性能林業機械の活用状況や路網整備状況、担い手育成、市場動向や供給先の状況など、率直に意見を出し合い、現状の問題を把握し、改善策を話し合う場としている。

2 A森林組合4支所の林産担当職員、作業班への指導

(1) 外部講師による研修の企画・開催

4支所の内A支所は、特に木材生産量が多く、生産性が高い。A支所は他の支所より地形がやや緩やかであり、保育、林産施業を積極的に行ってきた森林が多いなど地域的に有利な要因があるが、何より、林産担当職員の現場管理能力の高さと作業班の技量の高さ、そして職員と作業班員の意欲の高さによるものである。

A支所の良いところを他の3支所へ波及するために、平成23年度は「施業現場の相互見学・意見交換」、平成24年度は「路網開設技術指導」の2つの研修を企画・開催した。

(2) 販売先の検討

木材生産の低コスト化の一方で、より有利な販売の検討が不可欠であり、県森連、森林組合の林産担当職員、作業班員が一同に会し、直送先、市場の調査、検討を行った。

(3) 未利用材活用モデル調査

平成25年度は未利用材の搬出について実証を行い、未利用材の搬出が木材生産量の増加と生産性向上の手段の一つとなりうるか検討した。

A材からC材の搬出まで考えた木材生産の難しさや展望について、職員と作業班員が共用することができた。

・ 活動による成果で残された課題及び今後の改善方策

課題は、A森林組合以外の管内の林業事業者への働きかけや、国有林との情報共有、木材安定供給に向けた連携である。課題に取り組み、A市全域の木材生産量の増加と生産性の向上、木材の安定供給をはかることである。

また、木材生産現場では、担い手不足は木材生産の失速につながるため、担い手の育成や安全作業の実施を徹底していく。

木材生産量の増加と生産性の向上に直結する指導は難しいが、構想の実現の担い手となる木材生産現場の方々にも目標や課題を理解してもらい、森林所有者、事業者、市、県が一丸となり、構想の実現に取りくめるよう支援・指導を行っていく。

2. 研修の受講状況

研修名 准フォレスター研修 平成23年 11月
(実施主体) 林野庁

研修名 森林施業技術研修 平成25年 9月
(実施主体) 林野庁

3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況

- 平成26年3月『愛知県林業普及指導事業成果発表会』において「平成25年度低コスト林業推進モデル事業 未利用材を含めた木材生産」について発表。
- 平成26年2月『林業新知識 No723』へ投稿。